

専攻名	創造技術専攻	必修・選択	選択	単位	2	学期	2Q
科目群	技術経営科目群	科目名	技術経営戦略特別演習			教員名	吉田 敏 廣瀬 雄大
		(英文表記)	Advanced Exercises: Strategic Technology Management				

概要	<p>本演習は、国内を主要な対象としながら、製品構成やデザイン、サービス構成、ソリューションなどを創るつくり手が、どのような設計思想で創っているのかを理解することから始まる。</p> <p>つくり手の設計思想は、本来、つくり手自身が一番理解していなければならないもののはずである。しかし、自分の考え方やモノの創り方の特徴を説明できる人はどれだけいるであろうか。本演習では、自分や自分の組織、そして一般的な国内外の組織の設計思想を議論し、創る対象に優位性のある考え方も、グループワークを通して理解していくものである。</p>		
目的・狙い	<p>本演習の目的は、つくり手としての自分や、自分の組織が、どのような特性を持っているのかを見抜く力を身に付けることである。製品、サービス、ソリューションの構成やデザインを創るとき、つくり手は独自の考え方や判断をしていくことになる。しかし、どのような考え方や判断をし、組織がつくり手としてどのような特性があるのかを理解する知見をつけることがメインテーマである。</p> <p>例えば、国内の各産業において、企業の多層的な技術力が極めて優れているのに利益に結びつかない場合や、顧客が望む製品より明らかにオーバースペックとなるものを開発して売ろうとする状況が少なからず見受けられる。このような状況がなぜ起こり、どのように対処していかなければならないかということについて、現在の各企業の中でも有効性の高い知見が少ないと言わざるを得ない。</p> <p>これは、従来の教育体験の中では十分な対応がなされてなかった面がある。また、国内の状況を明らかにした研究も決して多くないということは否定できない。</p> <p>本演習では、これらの状況に対処するために、実証的な課題を取り上げながら、受講者が積極的に新しい知見を得るために議論を進めていくことを中心としていく。このことにより、既に十分に企業内での経験がある受講者でも、これから企業などで社会活動を行っていく受講者でも、実践的な考え方を身につけていくことを視野に入れているものである。</p>		
前提知識 (履修条件)	特になし。		
到達目標	上位到達目標		
	製品やサービスのつくり手が持つ特性を明確に理解できるようになること。		
	また、その理解を戦略的に活かせるようになること。		
	最低到達目標		
授業の形態	創られるモノの要素の状況を概ね判断できるようになること。		
	形態		実施
	録画・対面混合授業		—
	対面授業	講義（双方向）	○
		実習・演習（個人）	—
		実習・演習（グループ）	○
サテライト開講授業		—	
その他		—	
授業外の学習	演習の内容については、教科書、参考書、講義資料で復習すること。		
授業の内容	<p>演習は、少人数のグループ活動を基本として進められる。</p> <p>全体的には、隔週等に課題を出し、その課題をグループで議論していくことを中心とし、最終的に個人のレポートとグループによるプレゼンテーションにまとめていくものである。</p> <p>但し、本演習は実際の企業の活動に基づいた内容であるため、日々、社会や活動の変化が起こり、新しい研究上の議論がなされていく側面がある。そのため、必要がある場合は積極的に講義内容を最新の状況に当てはめる目的で、刷新していく場合がある。</p>		

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	演習概要 演習の概要を解説し、受講生が全体の内容を理解できるよう整理する。特に、当該領域における今日の諸課題を理解し、それに即した研究上の議論を紹介しながら、最終的に企業活動の中で実践できる知見を身に付けていく方向性を描けるように説明する。	—	対面
	第 2 回	課題 1：設計思想 最初の課題は、設計思想の結果として出来上がる、製品の構成要素間相互依存性を考える。 どんな製品も、基本的に複数の部品や素材でできている。その構成を理解するための手法を理解し、具体例を取り上げて各自が構成の傾向を示していく。	—	対面
	第 3 回	第 2 回の続き	—	対面
	第 4 回	第 2 回の続き（グループによるプレゼンテーション）	—	対面
	第 5 回	課題 2：これからの製品開発のための考え方 二つ目の課題は、有形・無形の製品をつくる企業や組織において重要となる、これからの製品開発のための考え方を議論するというものである。 どのような要因を考慮しながら、また、どのような考え方を重視しながら、次世代の製品開発を進めていくべきか、重要な点を理解しながら、実践に活かすことができるような知見を身に付けていく。	—	対面
	第 6 回	第 5 回の続き	—	対面
	第 7 回	第 5 回の続き	—	対面
	第 8 回	第 5 回の続き	—	対面
	第 9 回	第 5 回の続き	—	対面
	第 10 回	第 5 回の続き（グループによるプレゼンテーション）	—	対面
	第 11 回	課題 3：創造プロセスの理解 三つ目の課題は、製品やサービスをつくる企業や組織において基本となる、創るためのプロセスの理解を目指すものである。これまでの創り方に対し、客観的・論理的な把握に関する知見を身に付けていくものである。	—	対面
	第 12 回	第 11 回の続き	—	対面
	第 13 回	第 11 回の続き	—	対面
	第 14 回	第 11 回の続き	—	対面
	第 15 回	第 11 回の続き（グループによるプレゼンテーション）	—	対面
	試験	なし	—	対面
成績評価	各回の演習の中で課せられるレポート（50 点）と、グループ活動およびプレゼンテーション（50 点）によって評価する。			
教科書・教材	吉田敏 編著、『技術経営』、理工図書、2012 年			
参考図書	前田正史、吉田敏 他、『「イノベーションの議論」を超えて』、丸善プラネット、2009 年 藤本隆宏、野城智也、安藤正雄、吉田敏、『建築ものづくり論』、有斐閣、2016 年			